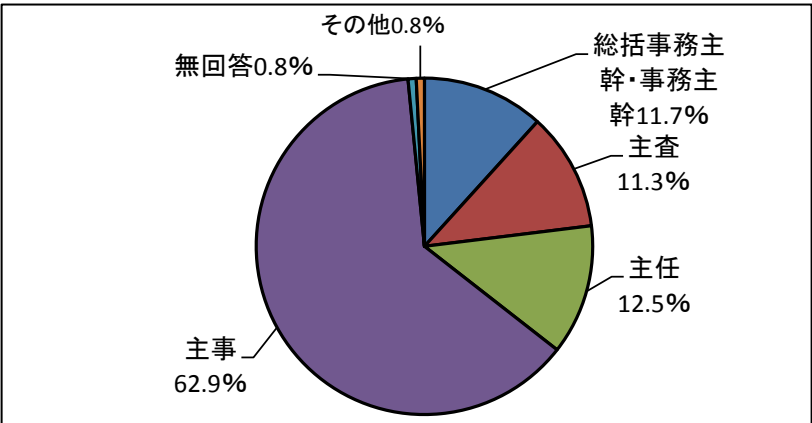


新潟県学校事務研究協議会第35回研究大会 アンケート集計・考察

新潟県学校事務研究協議会 総務部大会チーム

アンケート回答数 256 参加申込数 450 回収率 57 %

| 職 名 別 | 人 数 | |
|-------------------|-----|-------|
| 総括事務主幹 事 務 主 幹 | 30 | 11.7% |
| 主 査 | 29 | 11.3% |
| 主 任 | 32 | 12.5% |
| 主 事 | 161 | 62.9% |
| 無回答 | 2 | 0.8% |
| その他 | 2 | 0.8% |
| 合 計 | 256 | |



Q1：全体会についてお聞きします。

- ◆ Q1-① 自分のこれまでの取組を振り返って、どのように感じましたか。
- ・ 今まで少しずつでもやってきたことが、未来の種だったんだと改めて思いました。これから芽を出し、どのような花を咲かせるかは自分しだいです。肥料の役割を研究部でこれからも続け、みんな咲けることを期待しています。
 - ・ すでに自分達が”つかさどる”立場にいることを改めて認識をした。
 - ・ 自分が取り組んできたことは”つかさどる”役割をしてきたんだと感じた。
 - ・ 学校評価についてマンネリ化してきたように感じていましたが「教育水準の向上と補償が図られているか」という視点で、教育活動も含めて評価に関わろうと思いました。
 - ・ 学校評価への関わりについてもっと積極的に主体的なかかわりが必要であると感じた。
 - ・ 自分はまだまだ「事務をつかさどる」ことができていないと感じました。
 - ・ 今までの取組はやはり「従事する」というような職務内容だった。この全体会を通して「従事する」と「つかさどる」の違いを詳しく知ることができた。明日からの業務で「つかさどる」を意識してみたいと感じた。
 - ・ 「事務をつかさどる」の「つかさどる」は、何をどうすれば、つかさどっているのかと疑問に思っていたのですが、少しわかったように感じます。今やっていることも「事務をつかさどる」につながっているのだと自信になりました。

<考察>

平成29年4月に学校教育法第37条第14項が「事務職員は、事務に従事する。」から「事務職員は、事務をつかさどる。」に改正された。経験年数が多い学校事務職員からは、普段自分が取り組んでいることは「つかさどるにつながっている」「今までの取組は間違っていなかった」という意見が多かった。それに対し、経験年数の少ない学校事務職員からは「日々の業務に追われ、従事はしているがつかさどることができていない」「つかさどるへの意識が足りないと感じている」という意見が見受けられた。事務をつかさどることについて参加者が日頃の自分自身を見つめ直し、意識を高め、ヒントを見出す自己研鑽の機会となった全体会であった。

- ◆ Q1-② 明日からどんなことに取り組んでみようと思いましたか。
- ・ 校内組織を活用して参画していくことを支援すること。
 - ・ 若手への伝達、人材育成。
 - ・ グループ運営、若手が生きる内容を考えていかなければいけないと感じました。
 - ・ 学校評価から管理事務部の課題を明確にし共同実施等を利用し、課題解決していきたい。
 - ・ 学校評価に関わること、共同実施を活用することの内容をよく整理して、自分の業務にとりいれと取り組んでいきたい。
 - ・ 共同実施や校内での連携をいかして、学校経営への参画を目指していきたい。
 - ・ 「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に変わった意味を知ることができ、実行していこうと思いました。

<考察>

今後、事務をつかさどっていくにあたり、「研究基本要領2015」の3つの戦略にもあるように「人財育成・キャリア形成」に取り組んでいくという姿勢がうかがえた。また、学校評価について高い意識を持った参加者も多く見受けられた。学校評価は学校全体の課題を把握して、改善を図っていくための重要な活動であるという意識を持ち、積極的に学校評価に関わっていくこと、共同実施や校内や地域の組織と連携して評価と向き合い、学校経営に参画していくことで「未来のタネが花開く時」が期待できるのではないかと考える。

Q2：参加された分科会・講座研修についてお聞きます。

◆ 参加された分科会・講座研修はどちらですか。

| | 分科会 1 | | 分科会2 | | 分科会3 | | 講座研修 | |
|---------------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|
| 1 よく理解できた | 29 | 43.3% | 23 | 42.6% | 54 | 84.4% | 39 | 59.1% |
| 2 おおむね理解できた | 31 | 46.3% | 20 | 37.0% | 6 | 9.4% | 22 | 33.3% |
| 3 あまり理解できなかった | 0 | 0.0% | 2 | 3.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 7 | 10.4% | 9 | 16.7% | 4 | 6.3% | 5 | 7.6% |
| 合計 | 67 | | 54 | | 64 | | 66 | |

◆ Q2-① 分科会・講座研修に参加して、自分のこれまでの取組を振り返って、どのように感じましたか。

【分科会1】

- ・ 事務の標準化と若手育成、支部としての取組を振り返ることができた。
- ・ 標準化、同じシステムを使用することで、人材育成に一役買っている、人が変わっても同じ仕事・指導ができることが新鮮に感じました。
- ・ 適正で効率的な事務処理を行うには、標準化が大切だと言うことを改めて感じました。システム管理や更新等は大変だと思いますが、標準化されていると転入者、新採用者の支援にもつながると思う。
- ・ 上越支部で統一されたファイル・システムが多くあることは恵まれているんだと実感しました。市内異動・支援に行く際にも同じファイルが使えることはとても安心です。支部にとどまらず、全県で統一した方法で事務ができるようになると良いとみんな思っていることもわかりました。
- ・ 今まででは考えてもらうばかりだったが、これからは教える方になる。とても考えさせられました。他支部の実践を聞いてみてよかった。

<考察>

長岡・三島支部の発表を聞き、システム等が標準化することにより、新採用、市外からの転入者の支援、人材育成につながり、改めて標準化の必要性、大切さを感じたという意見が多く見受けられた。また、全県規模の標準化を求める声もあった。長岡・三島支部の効果的な実践やグループワークで他支部の情報を共有することで各支部の今後の標準化の進め方について考える機会となったと考えられる。

【分科会2】

- ・ これからの施設設備のあり方がいろいろあることがわかった。
- ・ 管理職とだけでなく、職員との情報共有が大切と感じた。(校内組織の活用)
- ・ 児童にとって安心・安全な環境づくりと思ってましたが地域(防災)への視点が新鮮でした。
- ・ 大きなことでなくても＋αでできることを考えてみたい。
- ・ 地域の中で、重要である学校の施設を深く考えて行こうと思います。

<考察>

学校における施設・設備は児童生徒の生活や学びの基盤だけではなく、地域のコミュニティ・防災拠点など多岐に渡って重要な役割を担っているため、安心・安全だけではない地域とともにある学校設備の重要性について考える機会となった。学校事務職員の強みや専門性を生かし＋α、イノベーション(新しい捉え方・切り口)を探り、学校事務職員の役割を考え、主体的・積極的に関わっていくきっかけとなったようである。

【分科会3】

- ・ 消耗品の整理や先生たちのちょっとした言葉、引っかけながらも少しずつ少しずつ解決してきました。もっとしなくてはいけないことがあるのでは・・・？と思っていましたが、それらの積み重ねも学校運営につながると感じ、少し自信ができました。
- ・ 実践をしたことのあるものから、今まで考えつきもしなかったことまで様々な実践を聞くことができ有意義なものでした。
- ・ 実践発表を聞き、気づきやきっかけを実践にうつしていくことを今後心がけていきたいと思いました。
- ・ 改善点に気付く力、そして改善に向かって行動する力が重要だと感じた。
- ・ 自分もいろいろ改善するけど、他人の取り組みを見るのは勉強になる。

<考察>

身近でわかりやすい実践、自分では思いつかなかった実践など多岐に渡った内容でよく理解できた、有意義であったという声が多数であった。また、日頃から実践したいと思っているが方法がわからず行動に移せていなかったが、実践発表を聞きヒントを得て校内で生かしていこうという意見があった。今までにないスマートフォン等を活用した参加型の発表方法がとり入れられており、新鮮な気持ちで研修できた要因の一つだと考えられる。

【講座研修】

- ・ 予算委員会の方法について、様々な学校の取り組みを知ることができた。自分の学校ではまだ本格的に動けていなかったのも、良い参考になった。
- ・ 予算委員会等、校内組織を機能させていくことが「つかさどる」になっていくことを強く思いました。
- ・ 「予算委員会」として何をやればよいのか、改めて考える良い機会となった。委員会の組み方についても勉強させてもらった。
- ・ 他の学校との状況を比べることができ、より良くしていくには何が必要か知ることができました。
- ・ これまでずっと予算委員会を開きたいとおもっていましたが、なかなか実行できずにいました。

<考察>

採用1～5年目の学校事務職員を対象とした研修のためか、「予算委員会を開催したいと思っているが開催できていない」「開催していてもよく理解していなかった」という意見が見受けられた。しかし、研修に参加し、予算委員会の必要性、重要性を感じたことが読み取れる。また、グループワークにおいて他の学校の状況や実践に触れることができ、自校での取組に向けて何が必要であるかを知る機会となったようである。

◆ Q2-② 明日からどんなことに取り組んでみようと思いましたか。

- ・ 世代交代や、担当者が変わった時にも円滑に進むシステムづくり。 (分科会1)
- ・ システム等の標準化のとり組みを考えていきたい。また、若手育成につながるようなとり組みになるよう検討していきたい。 (分科会1)
- ・ 安心、安全のみでなく、施設・設備の多様な役割の充実について考えていきたい。 (分科会2)
- ・ 情報のイノベーションを頭に入れて取り組みたいと思った。 (分科会2)
- ・ 小さな実践をコツコツと積み重ね、学校マネジメントしていきたい。実践者の内容で真似したいことが多数あったので自校でもぜひ行いたい。 (分科会3)
- ・ 在庫管理、整理、すぐにできそうなアイデアをたくさんいただきました。 (分科会3)
- ・ 来年度に向けて管理職と相談し、開催できるよう準備を進めたいと思いました。 (講座研修)
- ・ 学校予算委員会のあり方や活用の仕方について考え直してみたいと思いました。問題を共有・相談・改善する場としてより良い活用をしていきます。 (講座研修)

<考察>

各分科会、講座研修で聞いた実践、新しい切り口等が今後の自校での取組や支部活動、共同実施、人材育成へ生かしていくヒントとなったようである。その中で管理職や教職員、支部内での情報を共有していく必要を感じた参加者が多く見受けられた。来年度以降も研究及び実践発表を行っている団体及び個人会員からの自主的・積極的な応募を期待したい。

Q3 : 研究大会全体を通してお聞きします。

◆ 研究大会全般について、感想や意見をご記入ください。

- ・ 1年に1度いろいろな支部の取組や話が聞けてとても勉強になります。
- ・ 若い人たちが頑張っている印象を強く受けた。プレゼンやムービーなども工夫されていてよかった。
- ・ 多くの事務職員の方々の意見を聞いてみて、今後のためになることが沢山ありました。「つかさどる」ということを意識して仕事していきたいです。
- ・ 全国的に見ても、先進的な取り組みをされている新事研の研究大会でいつもとても勉強になっています。各支部の取組みを聞くことができ刺激にもなります。これからの日ごろの業務に生かしていきたいです。
- ・ いろいろなアイデアをありがとうございました。(分科会のプレゼン、とても良かったです。)
- ・ 今回の放送全体的に聞きづらかったのが残念。新潟市がぬけてもりっぱな研究大会でしたね。
- ・ 月末の月曜日は辛いです。分科会が職位別にもう少し選べるとありがたいです。他支部の方とグループワークするのはとてもよい研修になる。分科会の時間をもう少し増やしていただくとよい。

<考察>

今年度は新潟支部の新事研脱退に伴い、参加者人数が100人程度減ったが、アンケートの回収率は57%と昨年度の56%よりも少し上がった。今後もアンケート記入について十分な時間を確保するなど対策を検討し、より多くの参加者の声を聞けるようにしていきたい。

SJK大会サポーターは昨年度より1日サポーターが10名程度減ったがサポーターの方が積極的に動いてくれたおかげで受付や会場の設営、セットチェンジなどスムーズな大会運営につなげることができた。また、1日サポーターは1日拘束されしまうと思い、応募をためらってしまうという声もあったので、サポーター募集の際に業務内容について会員にもっとアピールしていく必要があると考える。

大会の開催時期については、全事研研究大会の日程や朱鷺メッセの空き状況により第36回研究大会もやむなく月末の月曜日開催となる。都合をつけて参加いただきたい。また、スノーホールのマイクの音響について聞きづらいとの意見があったので、会場準備の際に入念な確認が必要である。

法改正により「事務職員は、事務に従事する。」から「事務職員は、事務をつかさどる。」とされたことについて参加者が自身を振り返り、今後の学校事務職員のあり方について考える研究大会になった。各分科会、講座研修で実践方法などのヒントを得て、経験年数によってできることは異なるが、自分にできることからやってみよう、今後に生かしていきたいという前向きな意見が多く見受けられた。今後も会員がより満足できる研究大会の開催に向けて、学校事務職員に求められる研修内容を企画するとともに、会員が積極的に研修の企画や運営にも係わることができるような研究大会を運営していきたいと考える。

- * アンケート及び大会申込み時に寄せられた皆様の声を受け止めながら、次回大会、そして今後の研修に生かしていきたいと思います。大会への多くのご参加、アンケートのご協力に感謝申し上げます。